

令和3年度全国学力・学習状況調査が5月27日に実施され、大東市の全公立小学校の6年生914名、中学校の3年生895名が調査に参加しました。

調査内容は、国語及び算数・数学、による「学力調査」、児童・生徒に学校生活や家庭生活の様子をたずねた「児童・生徒質問紙」、各学校の取り組み状況や教職員の意識についてたずねた「学校質問紙」の三つからなっています。

教育委員会では、分析した調査結果を学校での「授業改善の工夫」および児童・生徒の「学習意欲と学力の向上・基本的生活習慣の定着」に役立てるとともに市の教育施策に反映させてまいります。

なお、本調査で測れるのは児童・生徒の学力の一側面です。

問 教育研究所 ☎870・9107

小学校 学力調査の結果より

中学校 学力調査の結果より

【国語】

「話すこと・聞くこと」の領域は、全国平均を下回っているものの、向上が見られ全国平均に近づきました。この領域の各問題の正答率は7割～8割を超えており、多くの児童ができています。一方、「中心となる語や文を見つけて、要約する」や「理由を明確にしながらか自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」の記述式の問題などは、全国との差が大きい問題もあり課題です。

【算数】

「測量」の領域は、全国平均を上回る正答率でした。「式の意味を理解する」や「図形の面積を比べる」など、全国を上回る正答率の問題もあります。「データの活用についての知識・理解」は7割以上の児童ができており、概ねできています。一方、記述式の問題は課題ですが、児童質問紙で「言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題」の解答を「すべての問題で最後まで書こうと努力した」と回答した児童が全国平均並であることから、授業改善の成果を見ることができます。

【国語】

「書くこと」の領域は、全国平均を下回っているものの、かなり近づいてきました。平成31年度よりも改善がみられます。一方「読むこと」の領域は、引き続きの課題であり、特に「登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する」や「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ」などの設問では、その課題が顕著に表れています。日常的に読書に親しんだり、文章を読んで内容を理解したりするなどの経験を積み重ねることが大切です。

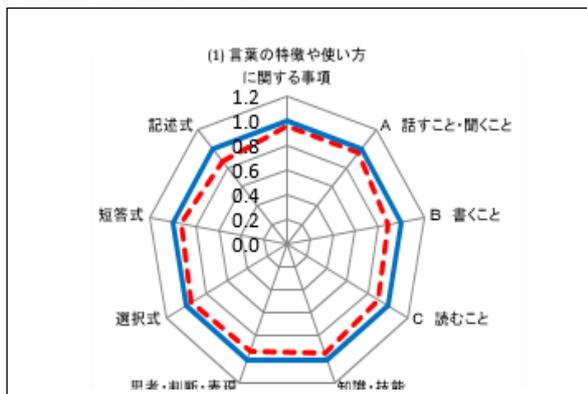
【数学】

平成31年度と比較すると改善がみられる領域が多く、中でも大きな改善がみられたのは、「関数」の領域で、正答率が9割を上回っている問題もあり、全国平均に大きく近づく結果となりました。引き続き無解答率には課題があるものの、生徒質問紙で「数学の内容はよく分かりますか」の回答が、「当てはまる」や「どちらかといえば、当てはまる」という肯定的な回答であった生徒が全国平均を上回っており、そこから、基礎的・基本的な内容に関する理解がすすんでいることがうかがえます。

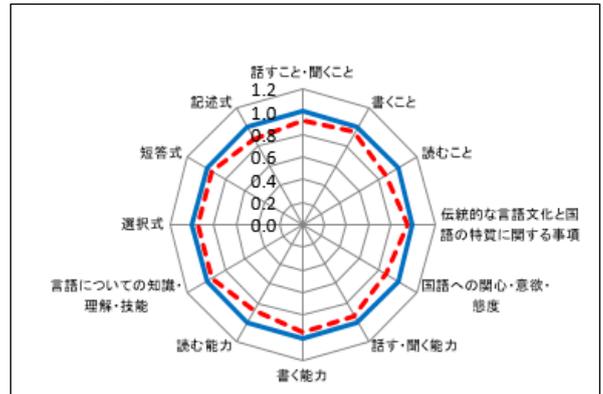
小学校 平均正答率

中学校 平均正答率

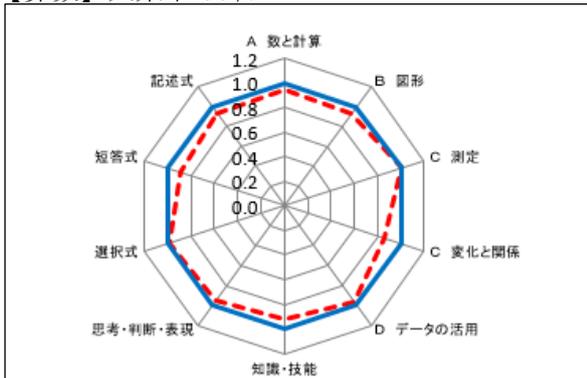
【国語】 大東市 61%



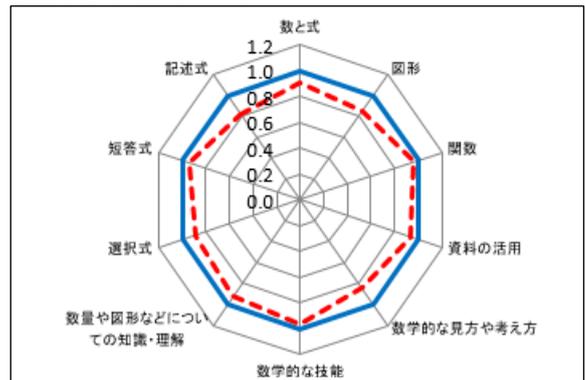
【国語】 大東市 60%



【算数】 大東市 66%



【数学】 大東市 52%



大東市 ---  
全国 ——